



第18号
平成5年
1993

会 報

にしきうら



(須崎市安和沖にて ヨット部)

高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

森岡校長先生のご勇退と岡崎新校長先生をお迎えして	
同窓会 会長 清家 寛	1
学習指導要領に見る工業教育の変遷	学 校 長 岡崎 紀秋 2
ご 挨拶	前 学 校 長 森岡 清 3
学 校 近 況	教 頭 小松 陽一 4
進路状況について	進路指導部長 西川 哲夫 5
関東支部だより 虎杖(いたどり)	逸見 悦子 6
高知支部だより	岡林 幸保 7
京滋支部だより 洛南そごろあるき	濱川 嗣郎 8
大阪支部だより	高橋 昭之 8
窪川支部だより 共通点	戸田 優 9
須崎支部だより 須崎とニホンカワウソ	豊永 哲史 10
クラブ紹介	
写 真 部	11
事務局より	
開校記念日の行事	11
事務局長退任のご挨拶	武森 幸利 12
ごあいさつ	井上 耿介 12
本部役員紹介	13
平成4年度決算並びに平成5年度予算	14
終身会費納入者名(1ヶ年間)平成4年10月1日～平成5年9月30日	15
会報届先不明者名	16～17
校 歌	
各種証明書の発行について	
編集後記	

ご挨拶

森岡校長先生のご勇退と 岡崎新校長先生をお迎えして

昭和18年機械二種卒

同窓会会長 清家 寛

会員の皆さんお元気ですか、お伺い申し上げます。
ご承知の通り、長年に亙り母校並びに同窓会のためにご指導、ご尽力下さいました、森岡清校長先生には、本年三月末日をもってご勇退されました。後任には、岡崎紀秋校長先生がご着任されました。

岡崎紀秋校長先生は、ご人格の高い立派な方で、昨年四月から本校教頭先生として、御活躍されておられましたので、本校の事情にも明るく、母校にいても、同窓会にとりまして、幸なことで誠に有難たいこととございます。

森岡前校長先生は、昭和六〇年四月本校校長としてご着任されて以来、八年間の長きに亙り、諸先生方と共に本校並びに同窓会発展のために、絶大なご努力をされました。お蔭さまで母校も同窓会も格段の発展を遂げることができました。

特に平成三年十一月の本校創立五十周年記念式典並びに、記念事業は盛大且つ有意義に行なわれ、本校の声価を一段と高めることができました。

後輩の生徒諸君には、創立五十周年を迎えるに当り、立派な学校に恥じない生徒になりたいという、

みんなの思いが一つになって、生徒憲章が制定され記念式典に於て、生徒会代表の方から発表されました。

後輩達は、森岡前校長先生をはじめ諸先生方のご指導のもとに築かれた、すばらしい基盤の上に、今後は、岡崎校長先生を中心に、諸先生方のよきご指導のもと、明るい生活目標に向かって努力向上してゆかれることと思えます。

母校が創立五十周年を契機として、更に輝かしい伝統を積み重ねられて、地域社会の期待に応える、学校として、発展されることを祈念いたしますと共に、会員皆様の益々のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

終りに臨み、本会報発行にご協力下さいました方々並びに同窓会事務局諸先生方の御努力に対し、衷心より感謝とお礼を申し上げます。



森岡・岡崎校長先生歓送迎会 H5.6.19(土) 須崎市新町「大関」にて



学習指導要領に見る工業教育の変遷

学校長 岡崎 紀秋

同窓会員の皆様には、健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私は本年度より森岡清前校長の後を引き継ぎ校長を勤めさせていただいております。

森岡清先生は八年間の長きにわたり校長を勤められました。皆様がご存じのとおり先生は本校の同窓生であり、また、お父様は本校第五代の校長を勤められました。そのため、本校のことに、また、同窓会のことにも精通されており、まさに、本校の生き字引という存在です。本校の教育の進展に情熱をもって当たられ、生徒の育成、施設・設備の充実など数々の業績を残されました。また、一昨年創立五十年に当たっては記念式典、記念誌の発行、生徒憲章の制定と碑の建立などを中心になって当たられ、創立五十周年を祝うと共にこれからの本校の発展の指針を示していただきました。

私は、このような森岡先生の後を受けて本年度より校長を勤めさせていただいておりますが、なにもぶんに力不足でございます。同窓会員の皆様のご支援、また、おしかりもいただきながら本校をより良い学校にしていまいたいと考えておりますので、どうかよろしく願います。

工業教育は時代の進展に従って、いろいろな面で様変わりをしております。平成六年度からは新学習

指導要領に基づく教育課程が実施されます。

文部省の学習指導要領はほぼ十年に一回改訂されますが、前回と今回の二回の改訂で新設された科目を紹介いたします。

一「工業基礎」

全ての科で一年生で履修する科目で、目標は「工業の各分野にわたる基礎的技術を総合的な実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業に関する広い視野を養うとともに、問題解決の能力を伸ばし工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。」となっております。

何かの製作に取り組みます。たとえば電気スタンドを製作します。入学してきたばかりの一年生です。ので、理論や工作方法などはわかっていません。しかし、電気スタンドを製作する過程で工業技術のいろいろな面にふれさせることができます。製作体験をとおして工業の営みを生徒に理解させようとする科目です。

しかし残念ながらこの科目の趣旨は十分に生かされてなく、従来の要素実習を行うことが多くなっています。

二「工業数理」

全ての科で、原則として低学年（一、二年）で履修する科目で、その目標は「工業の各分野における具体的な事象を数理的、実地的に処理する基礎的な能力を育てる。」となっております。工業で必要な数学を実際の事象を例にしながら学びます。この科目の新設に伴い、従来の「応用数学」は無くなりました。

三「情報技術基礎」

全ての職業科で履修する科目で、目標は「社会に

おける情報化の進展及びコンピュータの役割を理解させるとともに、コンピュータに関する基礎的技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。」となっております。「読み、書き、そろばん、コンピュータ」と言われる時代にふさわしい科目です。

四「課題研究」

全ての科で三年生で履修する科目で、目標は「工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をを通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。」となっております。従来の卒業研究に似たもので、生徒が自主的に課題を設定し、製作等をつうじて工業技術を身に付け、応用力を養います。

五「家庭科」

工業の科目ではありませんが、平成六年度から家庭科が男女共修になりました。日本が先進国として国際的に活躍しているなか、教育も男女共通であることが求められております。「男子厨房に入らず」の時代は終わったようです。

本校では「生活一般」を履修します。この科目の目標は「衣食住、保育、家庭経済などに関する基礎的・基本的な知識と技術を家庭の健康な生活を管理する立場から重点的、体験的に習得させ、家庭生活の充実に向上を図る能力と態度を育てる。」となっております。

同窓生の皆様が学ばれた工業教育とは違っている面が多いと思います。工業教育について、ご理解をいただくとともにご意見をお寄せいただきたいと思います。



ご挨拶

前学校長
森岡 清

同窓会の皆様には、お変わりもなくご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。

私事

今年三月をもちまして私には少々過ぎた大任を何とか果たさせていただき、定年で退職いたしました。その間、同窓会には大変なご厚情、お励まし、そしてご援助を賜り、ここに心からのお礼を申し上げます。殊に一昨年十一月に行なわれました、学校創立五十周年記念式典、並びに同祝賀会、それに併せての数々の記念事業に関しましては、同窓会のご援助なくしては到底なしえなかつたものと思ひますと、一層の感謝の気持ちでございます。

また式典に際し、大勢の皆様のご出席をいただいたことは、生徒たちにとっても先輩方の母校に対する並々ならぬお気持ちを感じた機会になつたと有り難く厚く御礼申し上げます。

今振り返つてみますと、私は教職に携わつて以来、ずっと三十六年間、私の最も好きであつた工業で勤めさせて頂きました。そして思いがけもなく最後の八年間は、母校である須崎工業高校の校長としての勤務になり、全てを母校へのご恩返しとの気持ちで勤めさせて頂いただけは、私にとってこれほどの光栄はなく、誠に幸せであつたと存じています。

その間特に、同窓会の全ての皆様が、居住の遠近を問わず、暖かい心の目を母校にお向けいただいているという、そのお気持ちがひしひしと感じられ、私にとつての最大の励みになってまいりました。

母校は、創立以来三十年を紉町ですごし、須崎市民の皆様の大変なご支援のもと、相撲部の全国優勝や、機工部制作のエンジンの通産大臣賞受賞など、多くの栄光に輝く伝統を築きあげ、設置科も機械、造船、電気、化学工業と、総合工業高校としての発展を遂げてまいりました。

また、卒業生にとつて、最も重大な進路選択も順調に基盤を固めてまいりました。

さらに、大間への移転後はすでに二十年を経過し、今では世界一流といわれる日本のハイテク工業界を支える人材を送り出す工業高校として、充実した内容を目指しています。

私達卒業生にとつて、母校のこうした発展は何よりも嬉しいことでありますが、その間にあつて、創立以来数々の困難にもかかわらず、その時々における恩師の先生方、事務職員の方々、PTA、また学校を取り巻く地域の皆様方、そして同窓会の皆様方と、本校を守り育ててくださった多くの方々のご労苦を思いますとき、今は心からの感謝の気持ちで一杯であります。

そうした方々には、今後とも相変りませす須工に対する一層のご指導ご鞭撻のほどを、どうか宜しくお願い申し上げます。

さて、私の後任として本年度からお勤めの、岡崎紀秋校長先生は、かつて本校でご奉職の経験がおありで、さらに昨年一年間は本校教頭として、現佐川高校森校長（本校二十七年機卒）の後任を勤められた等、本校の現状にもお詳しい方でありませす。

岡崎校長先生は、高知県工業高校における情報教育の草分けとして、早くからコンピュータを手懸けられたその道のベテランで、高知工業情報科の創設にも中心となつて力を発揮されるなど、企画力、実行力共に秀でた、工業教育の近代化に最もふさわしい教育者のお一人であります。

これからの須崎工業の発展に、得難い校長先生をお迎え出来たことを大変嬉しく、また大いにご期待申し上げます。

どうか在校の教職員の方々並びに生徒の皆さんも岡崎校長先生のもと、お互いに最善を尽くし、須工の発展に一層の努力をされますよう、心から祈っています。また、同窓会の皆様方におかれましても、これまで同様の暖かいご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

終りに当たりまして、重ねてこれまでの多くのご厚情に厚く御礼を申し上げますと共に、私もこれからは、一同窓会員として母校の発展に少しでもお役に立つよう心がける決心でございます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



学校近況



教頭 小松 陽一

同窓会員の皆様お元気ですか。この春の人事で、校長として昇任されました岡崎紀秋前教頭の後任として、高知東工業高校より着任しました。どうかよろしくお願い申し上げます。

本校には、以前に、長い間お世話になっておりますが、学年集会、廊下での挨拶の励行、活発な部活動等活気あふれる須崎工業高校であろうれしく思っています。この状況は、一朝一夕に出来るものではなく、諸先生と生徒の一致した長年の努力が伺われます。この良い環境を継続し、さらなる飛躍を願って、頑張らねばと決意を新たにしていると心得ます。同窓会員の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

昭和十八年の第一回卒業生から、平成五年三月までの卒業生数は、機械科三四二〇名(女子一名)、造船科一〇七三名、電気通信科四九九名(女子二十七名)、電気科一八二七名(女子二名)、化学工業科九八三名(女子三二名)で総卒業者数七八〇二名(女子六二名)であり、本年度は、新入生二二六名(女子十二名)を迎え、在籍六三三名(女子二一名)、出身中学校数も三六校と校区も幡多から高知市内と広く、通学手段も、汽車四五%、自転車三九%、バイクモーター八・四%、徒歩四・三%となっています。施設、設備では、平成四・五年度に、南舎と本館

の大規模外装工事完了、平成六年度から各種の内装改修工事を予定していますし、教育設備は、回流水槽、マシニングセンター、CAD装置、汎用コンピュータ(端末二〇台)、パーソナルコンピュータ(四〇台)の導入整備等が完了しております。

学校行事は、奉仕等体験学習の一環として、校区二三地区での奉仕活動、近くのJR駅の清掃をはじめ、小中学生と一般成人を対象としたワープロ、パソコン教室を開催し、地域、一般から好評をいただいております。

人事につきましては、森岡清校長(昭和二六年機械卒)、田村安夫先生が停年退職されました、ご存知と思いますが、森岡校長は、五代目森岡貞篤校長(昭和二七年、昭和三四年)のご子息であり、親子二代にわたり、本校の校長として、長年月にわたり、激務を全うされ、母校を真に愛し、今日の確固たる礎を築いて下さいました。田村先生は、電気科に勤務され科長をはじめ、各種資格試験の指導等大変に心のこもるお世話をして下さいました。お二人の先生には、長い教職生活のご労苦に深く感謝しますとともに、今後のご指導をよろしくお願いいたします。

他に十人の先生方が転勤されました。諸先生方のご多幸とご活躍を祈念しましてお礼申し上げます。

教職員の変更は次のとおりです。

- (転出)
- 保木 正枝(国語) 須崎高
 - 尾崎 兼道(社会) 高知小津高
 - 町田与志一(数学) 高知南高
 - 高橋貴久江(英語) 須崎高

- 柴田 文雄(保健・体育) 伊野商高
- 池田 聰子(美術) 高知北高登
- 武森 幸利(機械) 高知工業高定
- 中野 達也(機械) 宿毛工業高
- 矢野 修一(造船) 高知東工業高
- 川淵 明弘(電気) 高知東工業高

- (転入)
- 小松 陽一(教頭) 電気) 高知東工業高
 - 藤田真由美(国語) 宿毛大月分校
 - 門脇 優至(社会) 高知西高
 - 笹岡 緑(数学) 高知東高
 - 西川 志暢(英語) 須崎高定
 - 山本 哲資(美術) 窪川高
 - 中山 誠二(機械) 高知東工業高
 - 藤岡 常幸(機械) 宿毛工業高
 - 宮畑 豊(造船) 高知工業高定
 - 公文 雄二(電気) 高知工業高定
 - 西村 卓哉(電気) 新 採
 - 小笠原理佳(理科) 期限付講師
 - 前田 朋子(家庭・英語) 期限付講師
 - 笹木真由美(養護) 期限付講師
 - 濱田 達矢(化学工業) 期限付講師
 - 光内 信久(社会) 時間講師
 - 竹下 明宏(体育) 時間講師(電気科OB)
 - 宮地 正美(機械) 時間講師
 - 田村 安夫(電気) 時間講師

今年は何年になく多くの新進の教職員を迎えまして、心を新たに努力しておりますので、同窓会員の皆様のご指導ご援助をお願い申し上げます。



進路状況について

進路指導部長
西川 哲夫

卒業生の皆様、常々後輩の就職等につきまして御指導御助言を頂きまして、心よりお礼申し上げます。世界的な不況の中で日本もバブル経済の崩壊により不景気が続き求職難の時代になってまいりました。貿易摩擦に対する諸外国からの批判の声を随分長く耳にしましたが、いっこうに黒字が解消されない状態のまま今日にいたっています。その間、各国からの圧力や不安定な国際状態の中でのカンボジア問題、ドイツの公定歩合の引き下げ決定でEC各国の景気の回復が好転するのか、PLOとイスラエルの和解によって中東問題がどのように進むのか、イラン、イラク、レバノンとの関係は等々、世界状況は目まぐるしい変化を遂げています。

国内では与野党逆転による細川内閣の誕生によって、日本経済は回復されるのが見通しが暗い中で一度は前内閣では景気は底ばいから回復に転ずると発表されたが、冷夏、円高、長雨による天候不順、台風の度重なる被害や個人消費、設備投資の不振は深刻で、雇用関係が悪化する一方で新内閣は「景気底割れ懸念」「景気は足踏み」「景気後退しかねぬ」を発表、労働省がまとめた雇用動向調査によると、残業減らし等何らかの調整を実施している企業は全体の五十九・九%に上っており、雇用調整の方法は

残業規制が最も多く、中途採用の削減、停止、配置転換、一時休業、希望退職者の募集、解雇等さまざまであり、雇用の過不足感については、「大きな過剰」と答えた企業が五%、「やや過剰」は三十八・二%、四割以上の企業が雇用に過剰感があると答えサービス業にも広がっています。

県内では日銀高知支店も中堅、中小企業八十三社を対象とした短期経済観測調査を発表、公共工事関連業界には明るさが広がりがつつあるも、製造業、非製造業が共に円高や個人消費の低迷等による売上げ収益環境の悪化から「悪い」と発表、県職業安定課では景気の低迷で企業が従業員を自宅待機させたりする際に国が支給する「雇用調整助成金」の申請がオーバー、六十二年度の円高不況時を大幅に上回る勢いで、県内景気は深刻を増しており、失業者や休職者が急激に増大したという兆候は今のところないが景気の低迷は深刻化しており、今後も同じような状況が続くだろうと分析しております。就職試験に出発する日をむかえて厳しいスタートとなりました。

本校の立地条件、家庭環境等を考慮のうえ、一人ひとりに適した指導をしてきたわけですが、例年、進路希望は、進学一割、県内就職者八十名前後、県外就職者百名前後で内定しております。本年度も数に変動はなく希望者が出ており、表は昨年度の就職者地域別表及び本年度受験希望企業先の地域別表です。それぞれの地域に無事内定した節には先輩方からの卒業生に対する御指導をたまわりますようお願い申し上げます。(九月十四日現在)

過去3年間の進路状況

年度	生徒数	進学	就職		その他
			県内	県外	
2年	205	19	77	108	1
3年	223	19	81	123	0
4年	200	17	73	107	3

地区別就職先人数

年度	元	2	3	4
県内	76	77	81	78
中・四国	36	35	32	36
大阪	26	11	17	19
関西	8	24	32	18
東海	13	19	23	21
関東	16	19	19	13

地区別	年度別	4年度就職	5年度就職
		先人人数	希望者数
関東	東	13	14
	海	21	17
関西	西	18	19
	大阪市	19	21
中・四国	内	36	33
	県内	78	78

本年度並びに過去2年間の求人状況(会社数)

年度	大阪	関西	東海	関東	中・四国	県外合計	地域内	計
3年	244	261	178	511	148	1,342	179	1,521
4年	231	240	179	443	186	1,279	124	1,403
5年	172	173	139	272	125	881	114	995

H5年度は8月31日現在の状況

虎杖（いたどり）

昭和38年電達 逸見 悦子

昨年の夏、高知から私の姉が初めて上京しました。五十八歳にして初めて赤レンガの東京駅へ降り立ったのです。上野の不忍池を見て、上野公園から陸橋を渡って駐車場へ向う途中、陸橋を覗きこんだ姉が頓狂な声をあげた。「いやーこんな所にイタズリがあるちや」。それまでは口数も少なく緊張して歩いていたのであろう姉の大声に先頭を歩いていた私の夫と息子も大急ぎでもどり陸橋を覗きこんだのです。

「ねえ見てんや。こんな所に大きなゴウソウが生えちゆうがやき。なんぼか大きなイタズリが生えちゆうたろねえ。取りたかつちや」。姉の言葉に一同笑いこけてしまった。ゴツゴツと木の枝のように成長してしまった虎杖、つまりゴウソウをゆすりながら「お母さんが懐かしがってイタドリを見て騒ぐのは解るけど、昨日まで高知に居たおばちゃんがこの所で大騒ぎするなんて考えられない」と息子は頭をかきつけてしまいました。「けんど、どうしてじゃおね。ゴウソウを見るともう生えちやあせんに根元を覗きとうならあね。毎年友達がいタズリを取り行くこういうて誘いに来てるけんど、勤めよつたら忙がしゆうてよう取りに行かなね」と姉は言う。田植えのあとの作休み。赤飯といっしょに出る虎杖の煮物。祖母の歌声に合わせて神社の境内で踊った盆踊り。修学旅行資金を作るために拾い集めた椎の実。触るとたちまち落ちてしまう楊桃取り。市原市の我家へ着くまでの一時間はそんな話であつたとい

う間に過ぎてしまいました。ところが車から降りると夫はニコニコしながら私の耳元で囁きました。

「先週も東京からここまで虎杖の話しを聞いたヨ」
 そうなのです。高知から仕事で上京したKさんを囲んで同級生八名が集まった後、女性三名を我家へ誘ったのです。その時も夫は運転席で黙々と私達四人の話しを聞いていたのです。その年の五月、箱根で催された関東ブロックの同窓会が最大級の規模で行なわれた話。その帰路山野草の話から虎杖へと話しがはずんだ事。相模原にも虎杖のいっぱい生える所が在り彼女達は毎年取りに行くという事で、来年は千葉の私も相模原まで虎杖を取りに行こうと、約束をしてしまいました。せまい車内で時折ワーツと笑いこけてしまう様子はまさに女子高生。世に言う熟女なんてものじゃあない。会えばいつも簡単にタイムトリップしてしまう仲間なのです。

正直なところ私も上京して以来、仕事、子育てにと夢中の時期は虎杖のことなどすっかり忘れていました。十年ぐらい前になりますが岐阜県へ旅をした時のことです。時は五月。レンゲの花が咲き誇る道中に忘れかけていた土佐の春が鮮やかに浮かんできました。突然、川沿いの道に赤紫の虎杖の新芽がざらりと勢揃いしている風景に出会ったのです。

「お父さん停めて！停めて！」思わず叫んでしまいました。「バカヤロウ急に大きな声出して。何事かと思つたら草じゃないか。草だよ」。さんざん小言を言われましたが、しっかり車から降りて、太くてやわらかい虎杖をポキンポキンとしやがみ込んで取った事でした。折り口からはまさに甘露の水がトロツと落ちる様は何にたとえられましようか。

それから間もなく我家は現在の市原市へ引越ししました。幸か不幸か我家からそう遠くない場所に虎杖が在るので。千葉は温暖な土地柄で、虎杖、椎の実、楊桃など豊かに生い繁つていて高知と似た環境のように思いますが、それ等を食用にするとは、あまり聞きません。昔は食べたという人も居ますので

食生活の変化なのかもしれません。近ごろでは虎杖の季節になると夫も心得たものです。「この道を行くとヤバイナア。確か虎杖があつたナ。別の道を行こう。お前達が大騒ぎする程うまいものでもないよ」。山形生れの夫の抑揚にも慣れました。虎杖の若い茎を食べるだけではなく若葉を天ぷらにしても、酸味と、かすかなぬめりが何とも言えない味です。根を煎じて飲むとジンマ疹や便秘にも効くとか。虎杖を好むのは私達女性ばかりではありません。須工の先輩Oさんとおある会合で同席したことがありました。

卒業以来ですの三十周年振りに再会したのです。彼は新しい仕事の分野をタイ国に求め一年に何度も海外へ行かれていた様子でした。そんな彼と三十年振りに出会った席で虎杖の話をしたことが、妙に心に残っているのです。男性なのに調理法も非常に詳しく、奥様にも教えられたとの事。

かつて高橋治氏の本々百花撰というエッセイ集のなかに、高知県人が楊桃の味を語る顔には法悦に近いものが漂うという文章がありました。私達が虎杖を見つけて身震いする程うれしくなるのは、いったいなんなのかしら。この心理をあれこれ分析するのはやめましよう。

藪ぐり虎杖探してゆく姉の呼び声途絶えて

谷は静もる

高知支部だより

昭和28年造船卒

岡林 幸保

同窓の皆さん、ご気嫌如何がですか。

今年北から南の端まで全国にまたがり地震、台風等々の異常事の続発で、ずいぶん痛めつけられています。全国各地で、ご奮闘、ご活躍の同窓諸兄氏には、ご無事でお過しの事と存じます。

高知支部だよりという事で寄稿を依頼されたが残念ながら高知支部の最近の状況を把握してなくて何を書いて良いのやら迷っている。高知支部の発足が昭和四十七年三月のことであつたので指折り数えると早いもので二十一ヶ年の歳月が過ぎ去つたことになる。従つて支部総会も会規約から見ると総会は十一回開催されていなければならないことになるが、昭和六十三年十月に第九回の支部総会が開催されてこのかた丸五年を迎えようとしているが未開催のまゝであり、支部会員諸氏及び同窓会本部に対して申訳なく役員一人として責任を痛感している昨今である。役員諸兄氏も夫々の職場立場で多忙を極めており、一同が会する機会が少く総会開催の段取りが出来ず、のびく／＼になっているのが事実です。近日常には支部長とも相談し、支部総会の運びに持つて行きたく考えております。

高知支部同窓会員も、五年間で住所変更や増減数があるうと思われるので会員名簿の整理も急がねば総会の運びにならないことも大きな課題のひとつ

なつて来ていることは確かである。が気ばかり走り行動が伴わないのは役員としての無力の証してはなからうかと自問自答している毎日である。

原稿の締切日がせまって来た九月十四日の朝、高知の朝刊を広げて読んでいた時であつた。あるページの黒枠に何気なく目を通していると、野瀬勇さんの逝去の報が掲げているのにくぎづけされた。

まさかと読みかえしたが野瀬建築設計事務所と併記されていたので間違いないだろうと察した。

野瀬さんは昭和二十三年M科卒で、その後高知工高で建築学を学ばれ建築設計事務所を創業された方で県下の建築設計業の中でも屈指の優秀な技術者であると聞き及んでいた。同氏は高知支部結成発足について、ご多忙の中、ずいぶんと協力を戴いた方であつた。また現在も高知支部の理事役員として活動してきてくれた先輩であつた。まだまだこれからという年令であり有能の士を失う悲しみがこみあげて来るのを禁じ得なかつた。本紙をおかりして、御冥福を衷心よりお祈り致します。

拙文で申し訳ないが今回はこれで、と書こうとしていたら、笹岡大先輩、吉岡大先輩達の音頭で須工同窓の集いに「大規模なイベント」をやるから出て来てや、という案内状が届いた。この機会に出席させてもらい大先輩達に高知支部総会開催の協力をお願いしようと思う。次回の寄稿には高知支部の話題として取り上げる事が多くありそうなきがする。

高知支部だよりとならず誠に申し訳ないがこれでお許しいたきたい。

同窓の皆さん、健康には呉々もご自愛されまして

益々ご活躍、ご発展されんことをご祈念致します。

平成五年九月十八日種崎にて



故 野瀬勇氏近影



◎◎◎支部だより◎◎◎

洛南そぞろあるき

昭和31年機械卒 濱川 嗣郎

八月下旬広瀬支部長より電話。「にしきうら」に支部だよりの原稿依頼あり。今回は自分の番だと引受けた。しかしながら文章など書く事は大の苦手。何を書けば良いか、一日延ばしにしていたが、何日も近づき、何んとか責任を全うしたく、筆をとりました。

さて京滋支部も発足して一年余り経ちました。支部長初め諸先輩達が色々苦勞して、産声を上げた支部。今後は、会員同志が力を合わせ発展させてゆかねばなりません。支部だよりにする具体的な活動もありません。今回は会社や私の住んでいる周辺の名所を紹介してみたいと思います。

まず会社の側を流れている木津川、その川に掛っている橋、木造の橋。人々はその橋を「流れ橋」と呼ぶ。増水すると橋げたを残しただけが流れる様になつてゐる。板をワイヤーロープで連結して後で回収し修復する様になつてゐる。この橋、何んで有名かと云うと、時代劇でお馴染み。映画、テレビで何度も出てくるので、記憶にある人も多くいると思ひます。撮影中に出会ふし、有名な俳優さんに逢ふこともあります。但し現在は先の大雨、増水でその名のごとく流される災害にあひ復旧されていません。

宇治はお茶も有名です。少し足をのせば、国宝宇治の平等院があります。十円玉でおなじみだと思

います。桜や藤の季節は大変な人出になります。田辺町には重要文化財の「一休寺」、春秋は競馬ファンでござつた返す淀の京都競馬場、初詣で有名な「石清水八幡宮」等々があります。

最後は土佐に関係のある事を書きたいと思ひます。京都市伏見区にある「寺田屋旅館」坂本竜馬の定宿として知られてゐます。主人が部屋中を色々と案内して呉れる様です。伏見は酒どころ、周囲を見渡せば酒蔵などが並び、伝統的な景観が今も残つてゐます。皆さんよく知つてゐると思ひますが、ちなみに「寺田屋事件」とは、

慶応二年(一八六六)一月二十三日、伏見の船宿寺田屋で、坂本竜馬が幕吏に襲われた事件で、寺田屋を拠点に薩長攻守同盟ができた翌日に起きた。入浴中だった寺田屋の養女龍子(後の妻)から急を知らされた竜馬は、ピストルで応じながら伏見の薩摩藩邸に逃げ込んで助かつてゐる。

京都は来年「平安建都千二百年」で色々な行事が計画されてゐる様です。京都市内の神社仏閣も結構ですが、時間に余裕があれば郡部に足を運んでみれば、まだまだ新しい発見があると思ひます。

文才の無いのは悲しい事です。へんな事ばかり書いてしまひました。今年は大変地異がよくあるし、日本経済も最悪、見通しも暗く生活は苦しくなるばかり。各企業とも大なり小なりの「リストラ」を実施して、この窮地を乗りきつてゆかねばなりません。お互いに頑張らなくては……

同窓生の皆様方のご健康と益々のご活躍をご期待

いたします。拙い文をもちまして、自分の責を終らせていただきます。

◎◎◎支部だより◎◎◎

昭和35年機械科卒

高橋 昭之

大阪支部は山田豊氏(二十一年機械科卒)、松村隆司氏(三十二年機械科卒)両氏を中心に増々活発な活動を続けてゐます。各年ごとの総会はもとより一年に二回のゴルフ同好会(よさこい会)を始め、誘い会わせての懇親会など、大阪に居て、土佐弁まる出してしゃべれる機会を度々与えて頂いております。今春退任された前校長森岡清先生在任中は御多忙にも係わらず、支部総会には須崎や高知支部同窓会の方共々必ず御臨席下さり、母校の近況やふるりの香りにいっぱいのみやげ話で総会の一層の盛り上りと充実に御尽力下さつた事、今さらながら感謝の念にたえません。退任にさいし私たちの御礼の気持ちを少しも御伝えする事の出来る機会を作つてはとの声が会員誰からともなく持ち上り、有志を集つたところ十八名の参加希望者が有り、須崎・高知両支部や同窓会事務局の御協力、御参加を頂き、地元須崎で総勢三十余名による御慰勞の小宴を催し尽きることのない思い出話しに花をさかせ楽しい一時を過ごし、翌日は土佐山田ゴルフクラブに於いて親善ゴルフコンペを開催、再会を楽しみに帰阪の途につきました。

森岡先生には私個人も大変お世話に成り生涯忘れえぬ恩師であります。昭和三十三年、先生が大学出たての新任教師で須工に赴任された年に入学した私は一年生から卒業までルーム主任として御教授頂きました。今こうして大阪の地で二十三年間も事業を続けていられる大きな礎となっている事は申すまでも有りません。先生、三十六年間もの永い間御苦労さまでございました。今後一層ご健康に留意され増々の御活躍をお祈り申し上げます。

ところで全国各地で活躍中の同窓の皆様は、バブル経済崩壊後の状況はいかがでしょうか。家庭電化製品や自動車産業を中心とした関西経済圏は日増に激しさを増しております。その上に急激な円高と正にダブルパンチで深刻な状況に陥っております。例えばかつては世界市場を制したテレビもこの七月には輸出台数を輸入台数が上回り（日本電子工業会統計）又某メーカーのエアコンにしても昨年は百二十万台輸出したものが今年には円高による採算割れで、輸出分はすべて海外に生産拠点を移し日本からの輸出は0台とか。もつと極端な例はビデオデッキの国内販売分まですべて海外で生産し国内生産を全面中止してしまつたメーカーも有ります。自動車産業なども同じ道を歩もうとしているようです。早くから言われていた空洞化が今まさに現実のものとなつて足元を洗い始めています。前途多難を思わせますが、しかし工業立国日本に生きる我々（工業人）は混迷の度が深ければ深いほど闘志を燃やし努力と創意工夫でこの波を乗り越えいつまでも日本経済の担い手の一員で有り続けねばならないのです。

窪川支部だより

共通点

昭和46年機械卒 戸田 優

須崎工業卒業し早くも二十二年。当時、都会生活を夢み、名古屋に就職。四年間の内にその夢も冷め帰高。自宅にてゴロ寝していた時、「ドキッ」とした。それは一秒を刻む音。名古屋では「カチ、カチ、カチ」窪川では「カッチ、カッチ、カッチ」と、とても遅く感じ、一日の流れがゆつたりしており、気分も落ち着く。田舎の良さを痛感した。

その後、地元の森林組合職員となり、十八年。スギ、ヒノキも知らなかった者が、今では自然の大切さを唱えている。この間、酒、釣り、野球、ソフト、バレーボール、バドミントンと若者を前面に出しての行動であった。年輩の方々は、仕事の関係以外はあまり付きあひもなく、マイペースで進んで来たが、三十代後半になって来ると、職場での立場（役職）もでき、人も知り、仕事面では業種の方々の交流も深まり、酒の席での知りあひ、仕事での関係も含め、知人が増えて来た。

その時、あるスポーツとの出合いで大きく変わる。スポーツとは「ゴルフ」である。以前は自分の頭の中、それもどまん中で、イメージとしてはよくなかつた。近くにある高南カントリークラブの近くを仕事で通る時は、「こんな雨の中、カッパを着てまで」とか、「この人達何の仕事をしているのか」「平日に休めるのか……」と、いつも思いながら、通過した事であったが、ある事をきっかけに、ゴルフをする事になった。

それは、神祭の酒の席であった。私は釣りの話しをしたのだが、他の方々はゴルフの話ばかり。以前から前記したようなイメージだったので、「何がゴルフか、しよいもんよ」と口に出た。

翌日さっそくゴルフ場へ。ラウンド終了後、「これは」と感じ、今では、風があらうが、雨が降ろうが……。釣り道具は知人へ、他のスポーツはやめてしまひ、ゴルフに没る。ゴルフは酒の席とは違い、正常な状態での会話が一日続き、ふだんの自分が出同伴の方々から教わる事が大変多い。

他種コンペにも参加させてもらひ、友人も増えて来たが、一番うれしかった事は、ある先輩の呼び掛けにより、窪川町在住又は勤務される須崎工業卒業生による「窪川錦浦会」発足である。

今回で五回目を迎えようとしているが、発足前は名前と顔は知つていても話をする機会は少なく、まして、学校の先輩、後輩など考えもせず「こんにちわ」と挨拶する程度であった。

発足後は、仕事関係を越えた良い意味での先輩、後輩のつながりが生まれようとしている。

現在では、隣りの住民を知らない時代になつており、「自分だけ」と言う状況になりつつある中で、「同じ学校卒業」と言う一つの共通点でのつながり、お互いの存在を確認し、認め合ひ、それぞれの立場で実社会を生きぬいて行くには、何よりも心強い事ではないかと考える。

ゴルフだけにこだわらず、あらゆる分野での前記した共通点を生かせる方法があるのではないか。今回窪川に於ける一端を紹介したが、私はこの共通点を大切にし、今後とも微力ながら応援してゆきたい。

クラブ紹介

写真部



第十七回全国高等学校総合文化祭（埼玉県、八月四日～八日）で、写真部、電気科三年富士洋志君の写真「さらば石灰列車」が奨励賞を受賞した。

全国高等学校総合文化祭は高等学校スポーツの祭典「インターハイ」に対し、文化の祭典としてスタートした。

この総合文化祭を「総文祭」といい、各県代表の生徒による芸術文化活動の発表会を総合的に開催して、創造活動の向上充実を図るとともに相互の交流を深めることにより、芸術文化活動の振興を目的として、毎年夏に各県持ち回りで開催される。

開催種目―演劇、吹奏楽、合唱、日本音楽、吟詠、剣詩舞、マーチングバンド・バントワリング、美術・工芸、書道、写真、器楽・管弦楽、郷土芸能、放送、小倉百人一首かるた。

本県からは土佐女子高校がパレード、マーチングバンド・バントワリング、日本音楽、放送（アナウンス、朗読）部門に、追手前高校から放送（アナウンス、朗読）部門に、丸の内高校から放送（朗読）部門に、南高校から放送（ビデオレター）部門に、東高校から放送（ビデオ作品）部門に、山田高校から放送（オーディオビジュアル）部門に、写真部に、学芸高校から写真部に、榊原高校から郷土芸能部門に参加した。

その結果、富士洋志君の作品が絵出品数325点の中から優秀作品として「奨励賞」30点に選ばれた。また、土佐女子高校浜口さんが放送（アナウンス）部門で同じく奨励賞を受賞した。

この荣誉に対して、九月十日、山口高知県教育長より奨励賞授与伝達式が県庁で行なわれた。

作品「さらば石灰列車」は昨年九月末で廃止された石灰運搬鉄道を同年九月二十七日に撮影したものであるが、この作品は記録として記念に残るものであるが本

事務局より

開校記念日の行事



開校記念講演
「下村昇」

本年度も、五月二十五日の開校記念日に同窓会より大阪支部の下村昇氏（昭和二十四年機械科卒・大阪教育大教授）に遠路はるばるおいいただき「私の夢」「大切な友達」をテーマにして、「重力列車について」を記念講演していただきました。会場には、下村先生の同期生もかけつけて下さいました。

在校生一同、本当に良い勉強になりました。下村先生には改めて御礼申し上げます。

人が偶発的に撮影したのではない。これまで長期休暇に北海道から九州の各JRの鉄道で各地の操車場、貨物基地へ特別に許可などを取り撮影に出掛け

このように鉄道にかける期待はJR四国総局に勤務したく、採用試験を受験し九月二十七日付で内定通知を受けている。

これまで写真部以外に生徒会活動や美術部、自転車部にも席を置き活躍している。

「重力列車」の話聞いて 機械科三年 浦岡裕也

講演を聞いて、今の科学は発達しているのて近い将来に重力列車は走るんじゃないかと思いました。昔は、宇宙へ行くなんて想像もしなかったと思う。しかし技術の発達した今は宇宙へ行ける。こんなことを考えると重力列車も夢じゃないと思いました。飛行機だって初めは夢だったと思う。しかし今は誰だって乗れる。こういう風に考えると、五年・十年・十五年後が楽しみになってきます。

いつの時代にも、人は夢を持って生きてきました。今その夢の一つつかえられていきます。

僕は、夢を持って生きるということが大切だと思います。もうすぐ社会人になるけど、夢を捨てずにいきたいと思います。

最後になりましたが、今回この話を聞いてためになりました。又須工に来られる機会があれば、この様なお話を聞かせて欲しいと思いました。

事務局より

事務局長 退任のご挨拶



昭和35年機械科卒

武森 幸利

天候も不順のこの頃、会員の皆様に於かれましては、ご健勝の事と存じます。

私事にて恐縮ですが、今回の人事異動により長年勤務してまいりました母校より高知工業高等学校（定時制）へ転勤となりました。

在職中は同窓会活動を通じ、会員の皆様や役員の皆様を含め、事務局の先生方には多大なご理解とご支援を賜りました。この紙上をもちまして感謝とお礼を申し上げます。

在任中の平成三年には「創立五十周年記念式典」が行われましたが、今、振り返りますと、同窓会関係にとりまして大変な行事（式典）であったと当時のことを思い出します。

新たな職場の勤務ですが、これからも忍耐・努力を重ね頑張りたいと存じます。

最後に会員の皆様のご健康とご多幸を、さらに同窓会活動の躍進を願いながら事務局長退任の挨拶とします。

ごあいさつ



昭和39年機械科卒
事務局長

井上 耿介

同窓会の皆様方におかれましては、お元気で忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

日頃は同窓会活動に、御尽力・御援助をいただき厚くお礼申し上げます。

この春の教員人事異動により、武森幸利事務局長が、高知工業高等学校定時制に転勤されました。武森事務局長は、長年にわたり同窓会事務局を担当され、特に事務局長として創立50周年記念事業や同窓会会員名簿作成等の大仕事の牽引車の役として精力的に活動して下さいました。心より感謝いたします。

その後任として、突然に事務局を担当した経験のない私が大役をおおせつかりましたが、今後の同窓会活動を考えますと、終身会費運用につきましてもその制度発足時には予想もしない低金利時代となり終身会費値上等運用方法も検討しなければならぬ時期に来ていると思います。心を引締め微力ではありますが、役員の皆様や会員の皆様の御援助をいただき同窓会発展のために努力をしたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



校内陸上大会スナップ H5 10月5日(火)

平成5年度 役員名簿

役職	氏名	卒コード	科別
相談役	田辺 博造	S 18-013	機械2種
相談役	森岡 清	S 26-020	機 械
名誉会長	岡崎 紀秋		
会 長	清家 寛	S 18-010	機械2種
副会長	寺田 郁雄	S 21-025	機械1種
	井上 耿介	S 39-004	機 械
常任理事	武内 徳雄	S 23-034	機械2種
	竹内 良一	S 25-014	機 械
	岡林 幸保	S 28-038	造 船
	下元 征夫	S 37-129	電気通信
	高橋 三雄	S 32-019	機 械
	植田 幸子	S 32-095	電気通信
	山崎 吉広	S 33-087	造 船
	津野 隆	S 41-090	造 船
	竹崎 貞夫	S 43-040	機 械
	西山 庸一	S 48-090	造 船
	古谷 恭啓	S 49-104	造 船
	長山 孝弘	S 52-028	機 械
	岡崎 明	S 53-046	機 械
理 事	中平 萬年	S 18-017	機械2種
	田村 耕吉	S 18-014	機械2種
	川添 泉	S 21-012	機械1種
	中西 二郎	S 21-027	機械1種
	廣瀬 理	S 21-029	機械1種
	山田 豊	S 21-035	機械1種
	吉村 功	S 21-081	機械2種
	岡林 懸市	S 23-027	機械2種
	堅田 耕勇	S 25-006	機 械
	竹下 俊郎	S 28-014	機 械
	野瀬 公介	S 31-099	電気通信
	中西 安男	S 32-023	機 械
	江口 長靱	S 33-041	機 械
	松浦 政志	S 35-064	機 械
	山地 健三	S 39-180	化学工業
	長谷部俊夫	S 41-168	化学工業
	梅原 正博	S 47-116	化学工業
	坂本 定浩	S 54-009	機 械
監 事	坂本 臣三	S 25-009	機 械
	松浦 博	S 37-104	造 船
会 計	西森 昌身	S 34-121	電気通信

支部長 幡多：松浦政志 窪川：川添 泉 須崎：寺田郁雄 高知：竹内良一
 大阪：山田 豊 京滋：廣瀬 理 中京：岡林懸市 関東：野瀬公介

平成4年度決算報告書

費目	金額(円)	備考
前年度繰越金	388,241	
新入生入会金	438,000	219名*2,000円
雑収	101,012	
特別会計利息	1,252,765	
特別会計補助	700,000	
計	2,880,018	
費目	金額(円)	備考
会議費	69,225	
事業費	1,295,785	開校記念品代 56,392 会報印刷代 639,600 会報送料 454,708 振替用紙 30,800 封代 56,500 その他 57,785
通借費	25,282	
事務費	2,255	
庶務費	145,780	
支部分配金	594,600	
雑費	42,672	
旅費	449,075	
予備費	0	
計	2,624,674	
収入	支出	残額
2,880,018	- 2,624,674	= 255,344円

<特別会計>

費目	金額	備考
前年度未積立金	26,750,000	
本年度納入額	3,240,000	新卒 (2,000,000) 旧卒 (1,240,000)
一般会計補助	▲ 700,000	
会員名簿販売金	790,000	
計	29,990,000	

監査報告

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、
預金通帳・定期預金証書とも確實に管理適正に執行されている。

平成5年4月24日

監査 坂本 臣三 博
" 松浦 博

平成5年度予算

支部配分金：会員500名未満200円
会員500名以上150円

(収入)

費目	金額	備考
前年度繰越金	255,344	
新入生入会金	432,000	216名*2,000円
特別会計利息	960,000	
雑収入	150,000	
特別会計より補助	620,000	
計	2,417,344	

(支出)

費目	金額	備考
会議費	80,000	
事業費	1,404,000	開校記念品代 60,000 会報印刷代 680,000 8,000部 会報送料 470,000 8,000部 振替用紙 54,000 6,000枚 その他 110,000
通借費	40,000	
事務費	10,000	
庶務費	150,000	
支部分配金	564,350	関東373 中京214 大阪471 京滋 83 高知748 須崎1257 盛川 86 嵯多 91
雑旅費	50,000	
予備費	100,000	
予備費	18,994	
合計	2,417,344	

平成5年度特別会計予算

項目	金額	備考
前年度未積立金	29,990,000	
5年度納入予定額	2,500,000	
計	32,490,000	
一般会計へ補助	620,000	
計	620,000	
平成6年度へ繰越積立額	31,870,000	

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十九頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書 一通につき三五〇円
成績証明書 一通につき三五〇円
単位修得証明書 一通につき三五〇円

送り先 〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話 (〇八八九) 四二一八六一

四二一八六二

FAX (〇八八九) 四二一七二五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

第十八号の会報「にしきうら」をお送りします。今回、原稿につきましてお願いをしましたところ、心よく原稿を送って戴き本当にありがとうございました。

終身会費につきましては、本年度に納入いただきました方々を載せさせていただきました。ご確認をさせていただきたいと存じます。

今後につきまして良い記事や会報内容へのご意見がありましたら事務局までご連絡下さい。

尚、印刷につきましては、須崎市内の笹岡印刷所さんにお願ひし、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。

事務局会報編集委員会

植田 幸子

会報「にしきうら」第十八号

平成五年十二月一日発行

発行所

高知県立須崎工業高等学校

同窓会事務局

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号

有限会社 笹岡印刷所